

【第 3 号議案】

一般社団法人 日本インダストリアルイメージング協会
第 19 期（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）事業計画案

1. 2026 年度の基本方針

JIIA は会員各位の健康、安全を重視しつつ、最新の動向を踏まえ、標準化に係わる活動を推進し、活動を通じて広く知見の共有と将来を見据えた人材発掘育成を JIIA 会員と共に目指してまいります。

具体的には、以下の通り活動してまいります。

（１）設立目的に沿った活動の展開

- ・ JIIA 定款第 3 条 1 項に謳っている設立目的を着実に実行することを基本とします。

（２）JIIA 活動の実行力の強化

- ・ 分科会を強化し、活動の実行力を高めるため、理事、委員会の効率的サポートします。
- ・ 次世代の人材の育成を積極的に推進します。
- ・ 活動内容を精査し分科会の統廃合など必要性に応じて効率化を図ります。

（３）G3 を基盤とした標準化に関する活動に積極関与

- ・ G3 傘下で活動している IVSM、FSF に積極的な関与を継続し、国内外の展示会、フォーラム、ビジネスカンファレンスなどで JIIA 標準の紹介、普及を促進します。
- ・ ロボットビジョン、AI などガイドライン、技術情報を必要とする新技術の紹介を積極的に推進します。
- ・ JIIA が中心となって、光伝送システムの普及に向けたプロジェクトを推進します。

（４）国際規格標準化への積極寄与

- ・ マシンビジョン規格の国際標準化の動向に積極的に直接関与する為に「国際規格推進委員会」を中心に活動を進めます。
- ・ ITU-T 規格については TTC と連携し規格化動向を追跡するとともに、G3 規格ガイドラインの ITU-T 勧告採択を目指します。
- ・ ISO による G3 規格の国際標準化の国内委員会に担当委員会が参加し公正な標準化に寄与します。

（５）アソシエイツデベロップメントを発展させ、広報、企画、マーケティング活動の最適化

- ・ 柔軟性のある効率的な組織運営を推進します。
- ・ マシンビジョンを取り巻く技術を専門とする他団体との連携の深化図るため関連展示会に出展し相互活動を推進します。活動を通じ、通信、AI、ロボット等に関連する企業、大学、研究機関などへ JIIA 会員への参画を促し会員数の増加を図ります。

- ・ 会員間の交流を推進するため、セミナー、交流会、技術発信の機会を充実させます。

(6) 独立行政法人東京都産業技術研究センターとの協力を維持、強化

- ・ JIIA 及び G3 が管轄する既存の各種規格を始め、今後新たに審議し、規格化していく画像技術の電氣的、機械的な評価精度を一層向上させるために東京都産業技術研究センターとの協力関係を維持、強化していきます。

(7) 事務局体制を強化

- ・ JIIA 活動を下支えする事務局体制の更なる強化とスポット的なリソース要求に対応することのできる体制を構築します。

(8) ガバナンス・コンプライアンスの強化

- ・ 一般社団法人としての JIIA 活動を支えるガバナンスを強化しコンプライアンス体制を確立するため必要な措置を講じます。

これらの基本方針に則り、各委員会の詳細な活動計画をご提案申し上げます。

2. アソシエイトデベロップメント委員会

2025 年度の活動を発展させていくために、引き続き、ロボット革命・産業 IoT イニシアチブ協議会（RRI）と日本ロボットシステムインテグレート協会（JARSIA）との連携活動を継続いたします。又新たな他団体との活動に於いて日本自動認識システム協会(JAISA)との活動も継続していきます。2025 年度は RRI、JARSIA、JAISA との関係性を構築することに注力をしてきましたが、2026 年度は 2025 年度に築いた関係性をさらに発展させ、各団体との連携活動を JIIA 会員にも発信していきます。

また、ビジョン側の人々がロボットを、ロボット側の人々がビジョンを理解し、自らロボット+ビジョンのシステムを手掛けていけることを目的とし、RRI、JARSIA、JAISA と JIIA で「ロボット+ビジョン」システムを構築するための基本知識やフローなどを解説したガイドラインを作成します。ガイドラインの作成にあたっては、それぞれの団体からメンバーを募り、活動をするを予定しています。

JIIA 会員に向けて、技術セミナー、マーケティングセミナーを開催いたします。ビジョンだけにとらわれず、世界で、日本で起きている変革や技術の情報、また、基礎的な研究分野など、さまざまな分野に知見がある講師をお招きして、セミナーを行いたいと思います。そのセミナーの場が JIIA 会員同士の交流の場にもなるように、ビジネスマッチングも企画していきます。

2026 年度のイベント、活動計画は下記の通りとなります。

- 1) 技術セミナー 3 回（6 月/社員総会基調講演、10 月、2 月）予定
- 2) ビジネスマッチングセミナー 2 回（9 月、1 月）予定
- 3) RRI、JARSIA とのガイドライン作成プロジェクト（現在素案作成中）

- 4) 連携団体が出展する展示会での JIIA 紹介展示、ミニセミナー開催
- 5) 連携団体が開催するイベント情報、セミナー情報を JIIA 会員へ紹介（メルマガ活用）
- 6) 連携他団体へ JIIA 活動を開示（他団体のメルマガなどを活用）

3. 標準化委員会

■ 展示会、セミナー等における普及活動

- 6月：Automate 展（アメリカ：シカゴ）への出展 6/22～6/24
- 6月：画像センシング展において International Machine Vision Standards Booth で展示及び JIIA セミナーの開催
- 9月：JVSM（JIIA's Machine Vision Meeting）で集中分科会、セミナー開催
- 10月：Stuttgart Vision 2026 展（ドイツ）への出展 10/6～10/8
- 12月：国際画像機器展において International Machine Vision Standards Booth で展示及び JIIA セミナーの開催
- 2027年2月：JVSM（JIIA's Machine Vision Meeting）で集中分科会、セミナー開催
- 2027年3月：Vision China 展（中国：上海）への出展
- 地方の展示会への出展とセミナー開催も検討します。

■ G3 規格化会議

- 4月： IVSM 参加（EMVA 主催）：チェコ/プラハ
- 10月： IVSM 参加（A3 主催）：オタワ/カナダ

■ デジュール国際標準化会議

- 6月： ISO ボルダー会議：米国/ボルダー
- 10月： ISO ケンブリッジ会議：英国/ケンブリッジ（予定）
- 2027年2月： ISO 東京会議

■ マシンビジョン普及活動

各分科会で進めている標準化、規格化活動及びこれまでの活動成果をベースにマシンビジョンの普及活動に努めます。グローバルかつあらゆる分野に拡大を続けるマシンビジョンを会員企業様にわかりやすく紹介し、業界のさらなる発展に貢献します。

AI の発展とともに世界的に注目が集まる光技術に対し、マシンビジョンにおいても光出力カメラのプロジェクトを通じて幅広い光伝送システムの導入を目指します。

■ 分科会活動

分科会間の交流を図るため、合同分科会や、各分科会を一定日程で密に集中しての開催を予定するほか、分科会内での議論を活性化するため、対面やハイブリッドでの開催を中心に進めていきます。

(1) CoaXPress 分科会

- ・ Version3.0 にて同軸ケーブルでの CXP-25 の規格化と光インターフェースの統合を行います。コネクタの評価の実施と、光インターフェースも含めて規格認証方法の検討を行います。
- ・ 電気適合試験（ECT）を計 4 回主催し、ECT の外部委託やラボ認証の検討を行います。
- ・ IVSM での Plugfest 開催とそれ以外に合同 Plugfest の開催を行います。
- ・ 展示会等での技術デモなどを通し、規格の理解と普及の推進を行います。
- ・

(2) USB3 Vision 分科会

- ・ IVSM・U3VTechnical Committee フォローを中心とした USB3Vision 規格動向の共有と提案活動を引き続き実施します。

(3) Camera Link 分科会

- ・ Version 3.0（主に GenICam 対応）の議論が始まり、具体的な内容が示された時点で、JIIA 側としての見解をまとめるための活動を再開し、必要があれば提案を行います。

(4) GigE Vision 分科会

- ・ IVSM のフォローを中心とした規格化動向の共有、また、GenICam 分科会と連携し、制御を含めた規格の理解と普及を推進します。

(5) 光伝送メディア分科会

- ・ 昨年度末に決定した内容にて JIIA OTM-001-2018 の改訂を行います。
- ・ カメラメーカー、FGB メーカー、セットメーカー様へのニーズ、課題、要望などのヒアリングや、市場の有望な製品、関連技術の共有を分科会内で行い、規格化も視野に、光伝送メディアについての意見交換、あるべき姿、実現に向けたステップなどのディスカッションなどを行います。

(6) Embedded Vision I/F 分科会

- ・ 展示会での動展示・静展示やセミナー等を通じて SLVS-EC の普及活動を行います。
- ・ SLVS-EC の特徴を生かした実証実験機材を作成し、展示会での動展示を実施します。

(7) コネクタ&ケーブル認証制度分科会

- ・ 2025 年諸事情で対応できなかったリリースガイドラインのエンドユーザーへの報告と今後の必要なガイドラインについての確認を行い新規テーマ（GigE）として対応すべきかを分科会で審議します。
- ・ 懸案になっている東京都立産業技術研究センターでの認証試験対応方法について再度協議を行います。
- ・ 新たなテーマである“光出力カメラ”のコネクタ&ケーブルについて関係分科会と協力しながら対応検討を進めていきます。

(8) IIDC2 分科会

- ・ Version 1.3.0 検討作業及び規格書発行を予定します。

- ・ レンズ分科会で発足の「LensConnect 作業部会」に参画し、OpticControl の策定を行います。

(9) GenICam 分科会

- ・ IVSM のフォローを中心とした規格化動向を共有し、規格の理解と普及を推進します。

(10) カメラ仕様分科会

- ・ EMVA1288 の ISO 化について、引き続き国内協議会、国際会議に参加し、国際標準化を支援します。

(11) 照明分科会

- ・ 現行規格書の改定作業を進めます。
- ・ 新たな活動テーマとして、人手不足への対策としての自動化への対応が遅れている状況に対応するために、ユースケースに対して環境・設置条件などを分かり易く導き、適正な照明機器をより迅速に選定できるようしくみを検討したいと考えています。

(12) レンズ分科会

- ・ 既存規格の定期見直しを含め、標準仕様の拡充を図ります。
- ・ 「LensConnect 作業部会」において、レンズ機能遠隔制御技術の標準化を進めます。

(13) 高忠実度色再現分科会

- ・ 将来的なアップデートを視野にした普及活動について、標準化委員会で検討します。

(14) 次世代 Vision ネットワーク準備部会（NVNET）

- ・ 現行のガイドラインにコマンドの追加検討について、実運用を想定しながら再考していきます。
- ・ JIIA 内で進めているロボット分野との連携や光出力カメラプロジェクトとの連携を模索していきます。

4. 国際規格推進委員会

JIIA は総務省認可の一般社団法人情報通信技術委員会（The Telecommunication Technology Committee、TTC）に引続き会員として参画し、マルチメディア応用専門委員会マシンビジョン Sub Working Group（TTC マシンビジョン-SWG）の委員として中心的役割を担い、定例、或は臨時招集提案による会合への積極的参加、議論を行い、国際電気通信連合電気通信標準化部門（International Telecommunication Union Telecommunication Standardization Sector、ITU-T）へのマシンビジョン関連規格改善案、並びに新規規格案の発案を行います。

ITU-T の再編により、今年から第 21 研究委員会（SG21）の Associates 会員として参画、提案されているマシンビジョン関連規格の調査分析、規格策定会合における発言あるいは寄書提出による規格の改善の実施、新規マシンビジョン関連規格の提案等による、国際標準規格化への積極的な関与と G3 及び JIIA の標準化の反

映を主眼として引続き活動します。

JIIA 会員への寄与として以下の活動を推進していきます。

- (1) マシンビジョン関連規格発案の具体的な活動の一步として、G3 マシンビジョン規格体系の ITU-T 内へのインプットを進めていきます。
- (2) TTC マシンビジョン-SWG の活動を通して、ITU-T、及び本邦総務省通信規格課での議論の内容を踏まえ、マシンビジョン関連規格の国際標準化の動向、情報を可能な範囲で JIIA 会員へセミナーなどの手段を持って開示、提供します。
- (3) ITU-T 内での動向を踏まえ、G3 内で既に規格化されている技術、或いは議論している規格自体の知的財産を最大限保護するための情報収集に努めます。
- (4) JIIA 会員の GSAC 内のサブワーキンググループ内への参加を募ります。

■ 活動スケジュール

- | | |
|------------------------------|--------------|
| ・ TTC マシンビジョン-SWG | : 随時 |
| ・ ITU-T SG21 本会合 (スイス・ジュネーブ) | : 7月、1月 |
| ・ ITU-T SG21 中間会合 (場所未定) | : 10月 (以降未定) |
| ・ 国際画像センシング展、機器展におけるセミナー開催 | : 6月、12月 |

以上の通り、2026 年度の活動計画をご提案いたします。